



法人統合及び大学統合について



東京工業大学大岡山キャンパス



東京医科歯科大学湯島キャンパス

国立大学法人 東京医科歯科大学
国立大学法人 東京工業大学

令和4年10月14日

これまでの経緯

- 令和4年8月9日
 - 両法人の統合に向けた協議を開始
- 同日以降、延べ34回、60時間以上の集中的な協議
- 本日協議の結果を発表

概要

両法人は、文部科学大臣から指定を受けた指定国立大学法人として、大学改革を牽引することはもとより、国内の競争環境の枠組みから出て、国際的な競争環境の中で世界最高水準の教育研究活動を展開し、ひいては社会の成長とイノベーション創出に貢献することが期待されている。

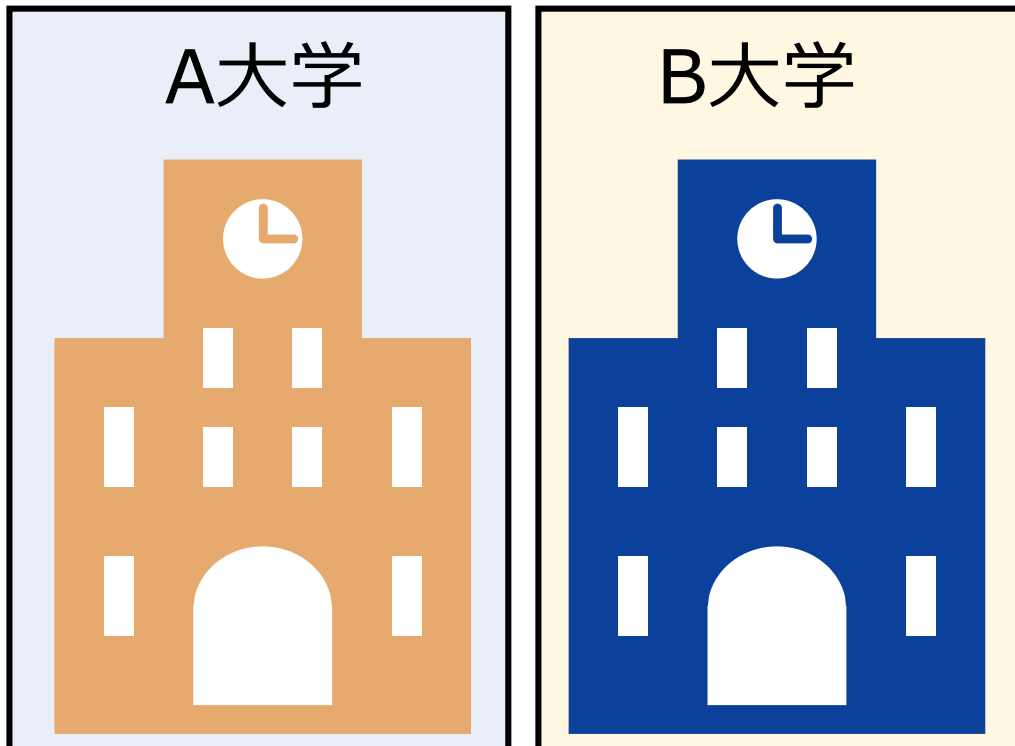
この両法人が担う役割を踏まえ、指定国立大学法人同士による他に類を見ない法人の統合及び新しい大学の設立を実現し、国際的に卓越した教育研究拠点として社会と共に活力ある未来を切り拓くことを目指す。

統合形式（1法人2大学、1法人1大学）

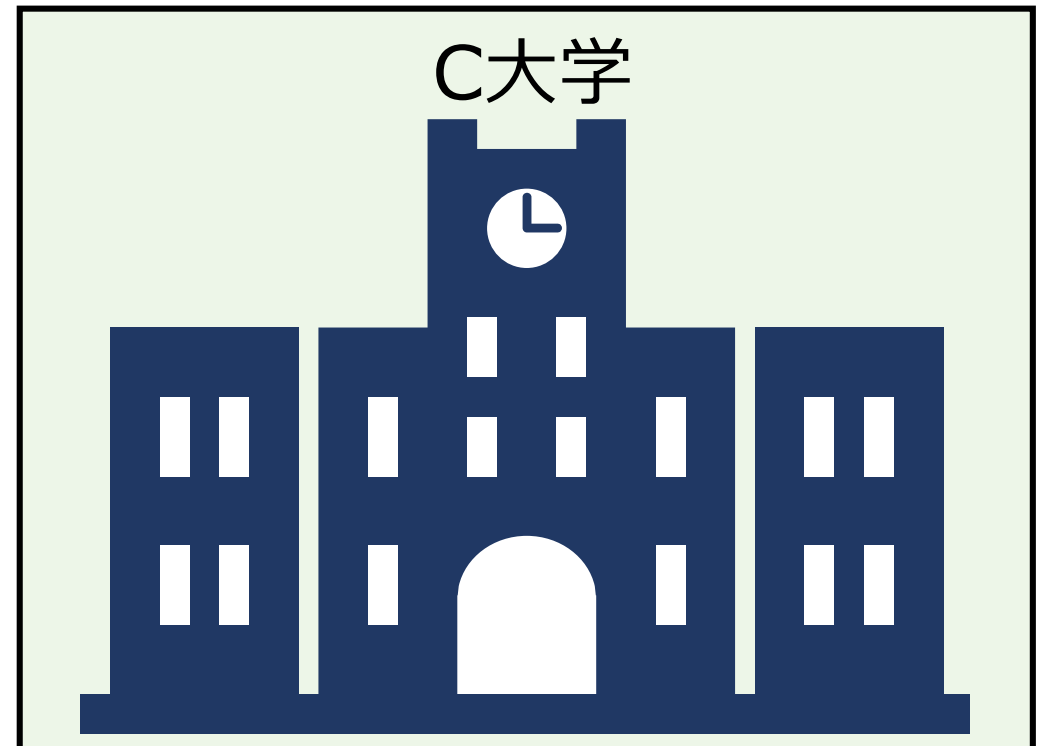
- 両法人は最大の統合効果を得るため「1法人1大学」を選択



国立大学法人（1法人2大学）



国立大学法人（1法人1大学）



1法人1大学を選択した理由

●より大きなシナジー効果

- 新たな医歯理工学のグラントデザインの下での組織、研究者、教育の融合が進み、医歯理工連携による新たな研究教育、人材創出などシナジー創出が容易

●一から新大学を構築し、大きな改革が可能

- 既存の組織に縛られず、自由にフラットな人間関係で、失敗を恐れずチャレンジできる組織を一から作ることが可能

統合の時期と統合時の教育課程

(1) 統合の時期

- 令和6(2024)年度中を目途として、できる限り早期の統合を目指す。

(2) 大学統合の際の教育課程等

■ 大学統合時

- 両大学が設置する学位・教育課程及び収容定員については変更しない。
- 2028年3月まで（国立大学法人第4期中期目標期間）
 - 新大学における移行期間ととらえ、学位・教育課程の変更を伴う組織改編も含めて、速やかに議論を進める。

統合の背景

●両大学のこれまでの実績

これまで両大学は、広く理工学及び医歯学に関する学知と技術、それを自在に応用できる人材の育成を通して、産業の発展と医療の進歩を牽引してきた。

●新たな社会課題

人類は、これまで想像し得なかった地球環境の悪化、新興・再興感染症、少子高齢化など様々な課題に直面している。そして今後さらに未知の問題が起こる可能性も指摘されている。

●両大学への期待

これら地球規模の課題解決に向けて、大学はその知を結集し、より大きな役割を果たすことが社会から期待されている。

統合の目的

両大学の統合の目的は、両大学のこれまでの伝統と先進性を活かしながら、統合によってこれまでどの大学も為しえなかった新しい大学のあり方を創出することである。

このため、両法人の統合と新しい大学の設立を実現し、国際的に卓越した教育研究拠点として社会と共に活力ある未来を切り拓く。

新大学の目指す姿

(1)両大学の尖った研究をさらに推進

根源的な問いに答える研究を尊重し、研究者が自身の興味に根差した研究を行える自由闊達な環境を構築して、両大学の重点分野・戦略分野をさらに強化していく。

(2)部局等を超えて連携協働し「コンバージェンス・サイエンス」を展開

多様な社会課題に立ち向かうために、理工学、医歯学、さらには情報学、リベラルアーツ・人文社会科学などを収斂させて獲得できる総合知に基づく「コンバージェンス・サイエンス」を展開する。

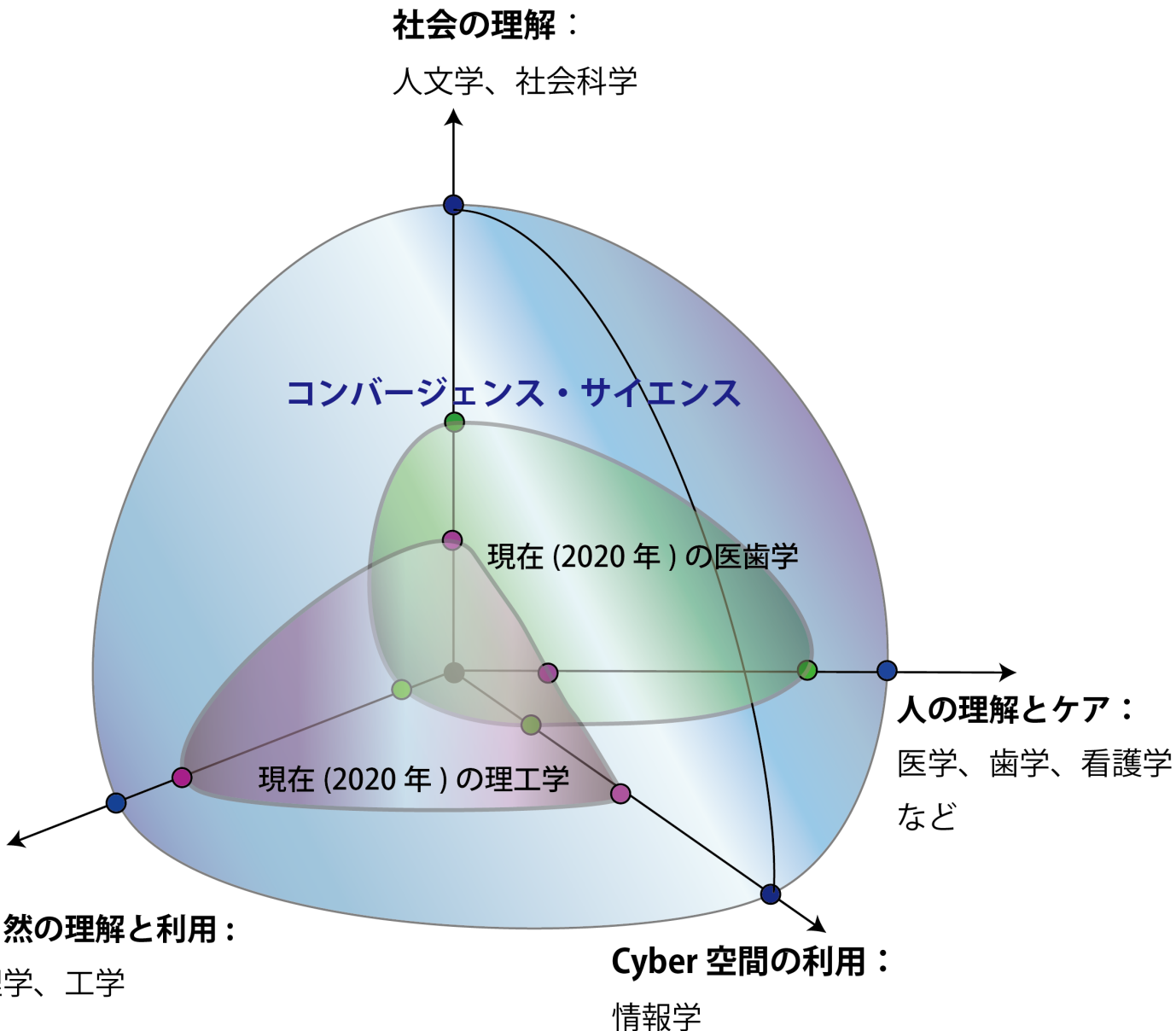
(3)総合知に基づき未来を切り拓く高度専門人材を輩出

教養教育と専門教育を有機的に関連させ、現代社会が直面する諸課題に対峙して、真に解決すべき課題を設定し、解決へと導く役割を担う高度専門人材を輩出する。

(4)イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化

すべての構成員に対して、高度な多様性、包摂性と公平性を実現し、世界に開かれた知の創造と人材育成の場を構築する。

目指すコンバージェンス・サイエンスの領域



コンバージェンス・サイエンスとは？

歴史的に異なる複数の学問領域が融合し、これが単なる加算($1+1=2$)ではなく、収斂後に新しい学問領域を生み出すことで未知の課題を発見し、社会課題を解決していくアプローチ($1+1>2$)をコンバージェンス・サイエンスという。

コンバージェンス 1.0:

物理学と工学の融合 (物理工学)

時期：20世紀半ば (第2次世界大戦前後)

成果：原子力、レーザー、MRI、CT、GPS、インターネット、スマートフォン、ジェットエンジン、宇宙船など

コンバージェンス 2.0:

工学と生物学の融合 (生命工学)

時期：21世紀

成果：生命機械(ウイルス核酸バッテリー、水チャネルを用いた浄水フィルター、Brain-Machine-Interface [BMI]など)

コンバージェンス 3.0:

理工学 + 医歯学 + 情報学 + 人文社会科学 (総合知に基づくコンバージェンス・サイエンス)

時期：未来(50年後)

想定される成果：新たな知の創造、個々のウェルビーイング実現、脱炭素社会、トータル・ヘルスケア、新たな課題 (Uncovered unknowns) の発見と解決など

コンバージェンス 3.0

Cyber 空間の利用

情報科学・工学, IoT,
CPS, Metaverseなど

社会の理解

人文学, 社会科学

コンバージェンス・サイエンス

異なる学術の融合により、身近な課題から地球規模の課題までを対象に、自由な発想で挑戦する

人の理解とケア

医学, 歯学, 看護学
心理学など

自然の理解と利用

数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, 生命科学など
諸工学, 薬学など

コンバージェンス 3.0

- ・ 新たな知の創造
- ・ 個々のウェルビーイング実現
- ・ 脱炭素社会
- ・ トータル・ヘルスケア
- ・ 新たな課題 (Uncovered unknowns) の発見と解決など

新大学の目指す組織文化について

新しい大学では、「自由でフラットな人間関係」のもとで次のような環境の実現を目指し、仕組みや制度を作る。

(1) 専門性・役割の多様性を尊重

すべての構成員が、互いの専門性や役割の違いを尊重し、自らの職務や課題に誇りを持って取り組み、共同してより良い学び・教育・研究・社会貢献を進めることができる。

(2) 失敗を恐れず挑戦

長期的・短期的、基礎・応用、革新・改良など多様な研究に取り組むことができる。また、失敗を恐れず挑戦し、専門を究めるとともに協働による新たな知の創造に挑むことができる。

(3) 構成員のウェルビーイング

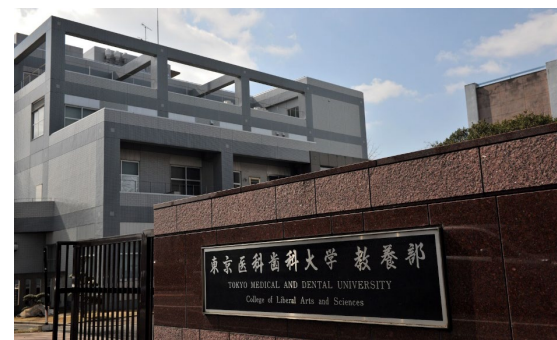
各自の生活と大学における活動をバランス良く進めることができ、自らのウェルビーイングを基盤として、余裕と自発性をもって新たなことに取り組み、社会に貢献することができる。

統合法人及び新大学の名称

- 統合法人及び新大学の名称は、新大学が目指す姿を映す名称にしたいと考えている。
- なるべく速やかに決定する。

おわりに

- 両大学は、本統合を通じて、我が国の大学改革を牽引するのみならず、国際的な競争環境の中で世界最高水準の教育研究活動を展開し、社会の成長とイノベーション創出に貢献し、ひいては地球規模の課題解決に向けてその知を結集し、より大きな役割を果たしていく覚悟です。
- つきましては、新大学の設立に向けて、学内の構成員の理解と協力はもとより、社会の皆様からの一層のご理解とご支援を賜りたく、お願いする次第です。



ご清聴ありがとうございました。